

5月号 ごあいさつ

先人、先哲から学ぶ 新渡戸稲造の『武士道』

今こそ受け継がれた日本人の精神の源流を世界へ!!

株式会社 山西 あすなる会顧問
代表取締役会長 西 垣 洋 一

混沌とする世界情勢に思う - 時代とともに受け継がれた日本人の精神 -

現在の世界情勢は、気候変動、政治的分断、経済戦争、格差等、世界はますます混沌としています。これまで前提としてきた法に基づく国際秩序は危機に瀕しています。さらにアメリカのトランプ大統領は4月2日、貿易相手国の関税率や非関税障壁を踏まえて自国の関税を引き上げる「相互関税」として、日本には24%の関税を課すことを明らかにしました。又、個別の関税率を示していないすべての国や地域を対象に一律で10%の関税を課すこともあわせて発表し、世界経済への大きな影響が懸念されます。あらゆるリスクに配慮しつつ事態に対応できる能力と、外交面で事態悪化を避けるべく努力を払うという難しい舵取りを迫られる局面が近付いています。

日本の世相をみても、グローバル化の進展に伴い、日本人全体が、日本の良い道徳・習慣を忘れ、どんどん合理主義・個人主義へと走っています。又同時に日本の社会が全ての面で、人が守るべき「道徳」とか「修身」といった「自律心」に欠け、これだけ無気力・無秩序になり崩壊している状況を見ると本当に嘆かわしく思います。戦前の学校（寺子屋）や家庭では「道徳」や「修身」といった“己を磨く”、自律心を養うための教育や躾がありました。この「自律心」を「気概」という徳にまで高め、「かくあるべし」という厳しい自己規律をもって行動の美学とした精神文化の源流が『武士道』です。

新渡戸稲造が挙げる『武士道』 - 七つの徳目（義・勇・仁・礼・誠・名誉・忠義） -

武士道にとって重要な要素を、新渡戸稲造は七つの徳目として紹介しています。その中で最も大事とされるのが「義」です。「義」とは打算や損得のない人としてのおこないです。武士は「義」のために死をも恐れない覚悟を持ち、利欲に走らず、ひとたび承諾したことには命がけでその言葉（約束）を守り、不正や名誉のためには死をもってあがなうことを義務付けていたといえます。

今、荒廃たる日本人の現状を見ると、我々日本人がなくした最も大事なものは、この精神のバックボーンではないかと私は思います。いかに物質的に豊かになっても、精神の豊かさがなければ人は幸福になりません。我々日本の先人・先哲達は、それを知っていたがゆえに、武士道精神＝和魂を大切に、それを貫いてきました。新渡戸稲造は『武士道』の出版にあたり冒頭で次の文章を記載しています。

〔新渡戸稲造 『武士道』冒頭の言葉〕

「武士道は、日本の象徴たる桜花にもまさるとも劣らない、日本の土壤に花開く固有の華である。それはわが国の歴史の本棚におさめられているような古めかしい美德ではない。いまなお私たちの心の中にあって、力と美をかねそなえた生きる力である。それは手にふれる姿や形はもたないが、道徳的な雰囲気をかもしだし、いまも私たちに力強い支配のもとにあることを自覚させてくれる。武士道をはぐくみ、育てた、社会的状況は消え失せて久しいが、昔あって今あらざる遠き星が、なお私たちの上にその光を投げかけているように、武士道はいまなおわれわれの頭上に光を注ぎつづけている」

現代の我々日本人は急速な国際化、経済発展の中で、日本人としてのアイデンティティを見失いつつあります。かつて世界から日本は美しい国、日本人は礼儀正しい美しい民族といわれてきました。戦後八十年を迎えた今日、日本の風土、日本人の姿を見ると、我々はいまでも胸をはってそういえるでしょうか。先月の本稿もしかり、今こそ我々はもう一度「日本人とはなにか」を問い直す時期にきているのではないのでしょうか。

2025年5月吉日

今こそ受け継がれた日本人の精神を世界へ！

武士道を明治に改めて体系化し、“日本人の精神”としてノーブレス・オブリージュを引き合いに出して外国に紹介したのが新渡戸稲造の『武士道』です。武士道の精神は脈々と私たちに受け継がれ、そしてそれを創り上げる原動力となるのが「忍耐強さ」「連帯感」「誠実さ」「他人に対する思いやり」といった精神です。

ノーブレス・オブリージュ（Noblesse Oblige）とは？

- 高い地位にあるものの義務 -

『武士道』の精神を現代的解釈して、一言でいえば、「高き身分の者にともなう義務である」。すなわち武士は、直接的な生産に従事しない支配階級に属していたがゆえに、「正しい人の道」ともいべき倫理道徳を身につけ、庶民になり代わって社会の平安と秩序を守り、「民の模範」となるよう、それを実践して生きることを義務付けられた。現代風にいうと、今日の日本をリードする指導者層の立場にある人々が保持しなければならない“上に立つ者の義務”、つまり「ノーブレス・オブリージュ」のことである。

武士道を欧米諸国に理解してもらうため

新渡戸はヨーロッパの「ノーブレス・オブリージュ」を引き合いに出した



「ノーブレス・オブリージュ」とは

「貴族や裕福な階層にある者は、それに応じた社会への役割を負うべきである」という考え方

日本の封建制度は、ただ庶民が
権力によって虐げられてきたばかりではない



権力者には「仁」（という徳）があった



新渡戸は「ノーブレス・オブリージュ」に
最も近い徳として「仁」を取り上げ、
武士道の説明をしようとした

現在の奉仕やボランティア活動の
母体となる考え方



アメリカ・トランプ政権を
始めとした個人主義の襲来!!

日本人の思想をいかに世界の人々に伝えるか！